



2/2 日高さん



2/9 石橋さん
50cm超!!



2/9 有菌さん45cm(写真左)
川路さん48cm



帰りは根占のきよか食堂のラーメンでホッとタイム!

◎師匠のアドバイス

「0αを0に替える」

釣り始め、日高さんは0αのウキを使用し仕掛けの重さで沈む釣りをしていたが、アタリが中々とれなかった。そこで、「0にするといい」とのアドバイス通りにして、ウキ止めとシモリを付けると、魚の喰いでウキが沈むのでアタリがとりやすくなった。

「マキエをずらす」

最初はマキエをウキに被せていたが、エサ盗りが多かったので、アドバイス通りに、マキエがウキ・仕掛けの流れに後追いするように、ウキの潮上から入れるようにした。このやり方で、最後のクロも釣り上げた。



東向きに釣り座を取った



ロッド：がま磯 インテッサ GIV 1.25-53
道系：サンライン 磯スペシャル競技 マスラード 1.85号
ウキ止め (ハリから3ヒロ弱) シモリ
ウキ：釣研 フカセどんぐりEX
潮受けゴム 極小サルカン
G8
ハリス：サンライン トルネード SV-1 2号2ヒロ
ハリ：がまかつ 競技くわせ 5号
リール：ダイワ トーナメント ISO Z 2500 LBD



野間さんは朝の数投目、
ザラシの切れ目で
良型釣果!!



日高さん見事な口太ゲット!!

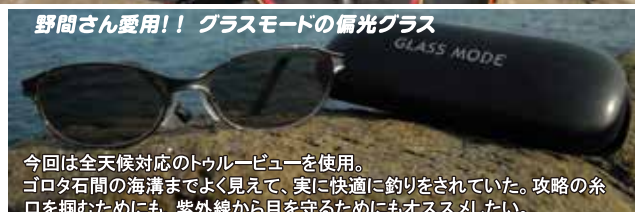
師匠のアドバイスのお陰で良型ゲット出来ました!! 間泊最高でした! また行きたいです!



■取材協力・お問合せ / 若吉丸(西方船長)
間泊港0994-26-1365

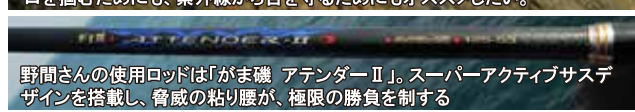


■取材協力・お問合せ/フィッシング南海
(鹿兒島市)TEL099-252-8993



野間さん愛用!! グラスモードの偏光グラス

今回は全天候対応のトゥルービューを使用。ゴロタ石間の海溝までよく見えて、実に快適に釣りをされていた。攻略の糸口を掴むためにも、紫外線から目を守るためにもオススメしたい。



野間さんの使用ロッドは「がま磯 アテンダーⅡ」。スーパーアクティブサスデザインを搭載し、脅威の粘り腰が、極限の勝負を制する



←マルキューの「船丸パック」。スーパー生加工で鮮度と透明感に優れ、クロ釣りでも重宝する

2/9 間泊で数釣りをご堪能した野間さん。黒潮色のサンラインのハリス・ブラックストリームと釣研のジャイロN、トーナメントゼクが威力を発揮!!



魚釣りは運・勘・根(粘り)だね! 師匠のアドバイスで大型ゲット!!

大隅半島の超地磯地帯はここ間泊〜船間・内之浦一帯まで、直線でも約35km以上は続く長い海岸線だ。背後には緑生い茂る大隅の山々が迫り、降りてこられる磯も限定的にはあるが、ほとんどが海からしか渡れない超地磯だ。その風景は美しく変化に富み人間をあまり寄せ付けない秘境の雰囲気も最高だ。イノシシが足を滑らせ落ちてくるという急な崖下の磯、岩山を裂いたような洞窟、岩の塊が巨大な力で砕け散りギザギザとんがった磯などなど、神秘的で地獄的な超地磯地帯でもある。一帯に産卵期に訪れる地グロは、さすがにこの風景によく似合ったぼつりとした巨グロも多く、間泊グロと言え

ばこのデカグロを連想される方も多いことだろう。そして、一帯のクロは1月中旬頃からかなり上向きとなり、数・型が狙える状況だ。2月上旬、本誌執筆でお馴染みの野間さんと、間泊は始めて、野間さんの弟子でもある日高さんの姿が磯上にある、午前10時頃から同乗させて頂いた。野間さんは、朝方の数投目で良型を釣り上げていたが、「凄いやエサ盗りが、エサが持たんよ」と、フラ付き気味の潮とも戦いながら次の良型を狙っていた。日高さんは、まだ初めての磯に慣れていない様子で、小型のクロやサンノジの強引に手を焼いていた。朝方は海は荒れ気味で、表



当日、野間さんの配合エサはマルキューの「V9」「V10」「遠投ふかせTR」を1袋ずつとオキアミ生2角、アミ1角で1日分



側の本命釣り座は使えず、地寄り側の釣り座での竿出しで、高波が時たま表側釣り座を洗っていた。昼頃に表向きの釣り座が波も被らず安全なのを見計らい「そっちで釣れば!」と日高さんを促す。野間さんの釣り座の潮上にも当り、沖向きの角の釣り座は潮通しも良さそう、かなり期待できそう。2時半の干潮前で、ゴロタ石状の海底は駆け上がり状で沖めに深くなっており、石の隙間が黒く海溝になっているのが、グラスモードの偏光グラス越しに見えていた。そして、日高さんは、足裏級を釣り上げた後に2度ほど瀬ズレなどで大バラシをした。

水深が浅めだったこともあり、ウキ止めの位置を3ヒロ半から3ヒロ弱と浅くしていた。そして納竿前の3時、潮がゆっくりと右沖に流れ、ウキがスパッと消え、遂に良型のアタリを捉えた。際まで寄せてくるが、中々浮かず「竿をもっと立てろくもっと!」と野間さんのアドバイスを受けながら無事タモ入れ。「何回かバラシがあり粘り時だと思っ

た」と、最後に決めた日高さんだった。「魚釣りは運・勘・根(粘り)だね! 彼の粘りがよかったネ!」と野間さん